

漁業者自らの磯焼け対策が評価

美国・美しい海づくり協議会

全国豊かな海づくり大会で最高賞

11月18日に沖縄県糸満市で開催された「第32回全国豊かな海づくり大会」において、美国・美しい海づくり協議会（神哲治会長）が、漁場・環境保全に関する実践活動とその運動を通じた地域産業の発展に功績があったことが認められ、漁場・環境保全部門の中での最高賞である「全国豊かな海づくり大会会長賞」を受賞しました。

同大会は、水産資源の維持培養と海の環境保全に対する意識の高揚を図り、水産業に対する認識を深めるための幅広い国民的行事として行われているもので、この日、天皇皇后両陛下のご臨席の下、同大会長の横路孝弘衆議院議長から表彰状が授与されました。

同協議会は、平成20年に、漁業者、漁協、レジャーダイバーなどで結成。平成21年度からは国の「環境・生態系保全活動支援事業」を活用し、漁業者とボランティアダイバーとの協力によりウニの除去や栄養塩の供給、コンブの胞子の供給のための母藻の設置など藻場の回復維持のための活動に取り組んでいます。

これらの実践活動が高く評価され、この度の受賞となりました。

11月27日には、神会長が役場を訪れ、松井町長に受賞の報告がされ、松井町長からは、「今回の受賞は、美国・美

しい海づくり協議会の藻場再生への取り組みが全国に認められたということ。当町にとっても非常に栄誉なことであり、今後の一層の活躍を期待します。」とお祝いを述べられました。

神会長は、これまでの活動を振り返り、「様々な課題や天候などにも大きく左右され、思うように作業ができない日もありました。が、実際に効果が現れていることが確認でき、大変嬉しい。また、大会前日の歓迎レセプションでは、天皇陛下から『これからがんばってください。』とのお言葉をいただきました。今回の受賞を励みに、またみんなと一丸となって活動を続けていきたい。」と話されていました。

余別自治会（井端順司会長）は、12月15日に、地域の自然の再発見とサクラマスサンクチュアリーセンターの活用を目的に「自然観察会」を開催しました。

地域の魅力再発見！ 余別自治会 自然観察会

この事業は、余別自治会が「自然に親しむ美しいまちづくり事業」として町のまちづくり活動支援事業による助成を受けて実施したもので、同自治会の老朽化したごみポストの更新や、同センター散策路の草刈など地域の環境整備も行っています。

この日は、同センターや散策路で、地域おこし協力隊・河村博環境生態系保全技術指導員を講師に、散策路周辺の草木や地域に生息する野鳥、余別川を遡上するサケ・マスの生態などについてのこれまでの調査結果の説明に、町内外から参加した17人は、真剣に耳を傾けました。

家族で参加した高野健治さん（婦美町）は、「地域の自然については以前から興味があったが知らないことも多く、この観察会から地域の魅力を再発見できた。」と話していました。

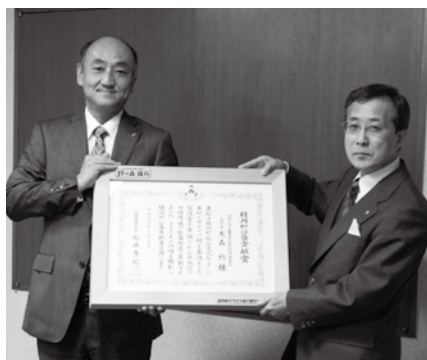


平成24年度 積丹町功労者表彰

日本たばこ産業(株)北海道支店に 積丹町公益貢献賞

積丹町の公益に関する事業の

推進に貢献された方や団体に贈られる積丹町公益貢献賞が、JT・日本たばこ産業(株)北海道支店(大森均支店長・札幌市)に



贈られました。

同支店は、当町の総合文化センターに積丹産カラマツ材を基調とした喫煙室を寄贈され、また、喫煙室の設置にあたり場所の選定調査や機能性確保への助言等の支援があり、公共施設の分煙環境の整備推進に貢献されました。

12月14日、同支店において贈呈式が行われ、松井町長から大森支店長に表彰状と積丹産カラマツで作製した記念品の額縁が贈られました。

クリスマスツリーを寄贈

町では、今年もクリスマスに向け、日本たばこ産業(株)本社(東京)と同社北海道支店(札幌市)にアカエゾマツを贈りました。同社員により色鮮やかに装飾されたツリーは、クリスマス期間

中、同社を訪れる人の目を楽しませていました。



▲ JT 北海道支店
JT 本社(東京) ▶

『国有林野事業業務研究発表会』 積丹町の民・国の連携の森づくり 共同施業団地の取組事例に高評価

11月20日、農林水産省で開催さ

れた林野庁主催の平成24年度国有林野事業業務研究発表会の「国民の森林部門」の北海道代表として当町農林水産課の西川主査と成澤主査が参加し、「日本林政ジャーナリストの会会長賞」を受賞しました。

この発表会は、森林の整備手法森林環境教育及び業務改善等の成果を発表し、これらの成果の普及を図り、林業の人材育成に資することを目的に毎年開催され、同部門のほか「林業技術部門」、「森林ふれあい部門」の3部門ごとに発表するもので、道内からは当町のほか3つの国有林関係機関が発表の機会を得た中で、当町の職員が唯一の受賞となりました。

発表は、道森林管理局石狩森林管理署と(独)森林農地整備センター職員との共同で『積丹町と歩む新たな森づくり〜北海道初の共同施業団地〜』と題して行われ、平成20年に同署や同セン

ターと道内で初めて締結された

「森林整備推進協定」による作業路網の共同利用による森林整備などの取組事例を発表。国の森林・林業再生プランに基づく「民有林と国有林との連携強化の促進」に役立つ事例として高く評価されました。

西川主査、成澤主査は、「積丹町が進める森林づくりをPRすることができた。この受賞を励みに、より豊かな本町の森林づくりを目指していきたい。」と話していました。



▲ 左から農林水産課成澤主査、西川主査、小林石狩森林管理署流域管理調整官、松村森林農地整備センター係長

林地未利用材の活用 をめざして

「町内建設業者の新たな取り組み」

12月11日に婦美町で林地未利用材の集荷実証事業の一環として、破砕機による林地未利用材チップ化作業の実演が行われました。

町では、分取造林地を含めた町有林の森林整備の過程で生じる未利用材がそのまま林内に残される「林地未利用材」の増加が見込まれています。

今回の事業は、その「林地未利用材」を木質ボード原料やチップ燃料として利用することができないか検討するためのデータ収集を目的としています。事業は町と積丹建設協会の全会員企業で構成された「森林資源活用検討会」のほか、木質資源の先進企業である(株)イワクラ(苫小牧市)の協力により実施され、今後の木質未利用資源を活用した新たな取組が期待されます。

